

10. 伊王島・沖ノ島の化石

- 地 域 ① 西彼杵郡伊王島町沖ノ島海岸
② 西彼杵郡伊王島町伊王島西海岸
- 交 通 長崎汽船 長崎大波止—伊王島
- 地形図 長崎 (1/50,000), 長崎南西部 (1/25,000)

長崎の大波止ターミナルから、長崎汽船の交通船が1日に数往復しており、約1時間で伊王島に到着する。長崎から十分日帰りができ、化石採集もたっぷりできる好巡検地である。

① 沖ノ島巡検コース 伊王島棧橋からせまい海峡ぞいのバス道路をしばらく行き、2つの島を結ぶただ1つの橋を渡ると沖の島にはいる。炭鉱会館前を通り、トンネルを抜けると伊王島鉱業所の敷地となる。この炭鉱は現在でも操業しており、後から述べる沖ノ島層の下位にある端島層の石炭を採掘している。この鉱業所を通り抜けて馬込の部落にはいると、丘の中腹に建っている教会が一きわ目をひく。さきほどのトンネルがくり抜かれていた細れきを含んだ砂岩層や、この部落内の崖でも、伊王島層下部(厚さ230m)の砂岩層が観察できる。とくに馬込の教会付近の砂岩には海生動物の破片が含まれていて、かなり石灰質である。

馬込部落を通り南東海岸①に出ると、上水道の揚陸地点があるが、最近馬込の入江の南側からこの付近までかなり広い埋め立て工事がおこなわれている。この①地点付近も伊王島層下部の砂岩層であるが、粗粒砂岩からしだいに細~中れき岩に変わり、結晶片岩れきや石英れきに混じって、炭化物や *Teredo* sp. (フナクイ虫の類)の化石を含んだれきがかなり含まれているのが観察される。さらに②の地点、すなわち高圧送電線の下を通るあたりから、伊王島



図1 伊王島・沖ノ島の地質図

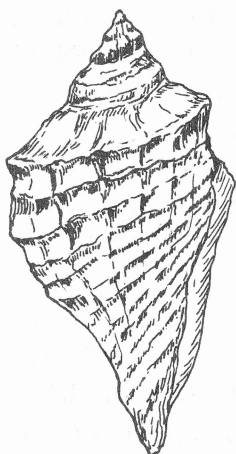
層最下部の出崎れき岩が露出している。このれき岩は厚さ約20mで、炭質物は含まず、おもに10~20cmの大きさの結晶片岩れきからなっている。

南東端の岬③の付近から西海岸一帯に沖ノ島層が分布している。沖ノ島層とその上位の伊王島層との関係は、従前から整合か不整合かで問題になっていて論議されている。暗灰

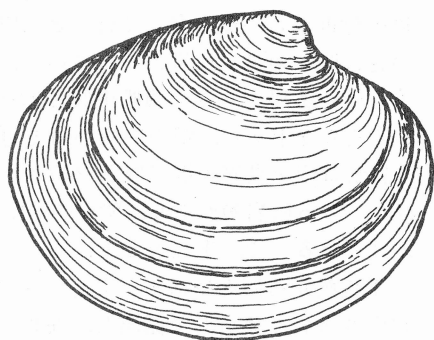
色の頁岩と海緑石を含んだ泥質砂岩の互層からなる沖ノ島層は、約200mの厚さがあるが、下限は海中にあって不明である。この層の分布地はケスタ状の海食台をなしているが、特に④の岬を廻った南西側は、干潮時には沖合200m程にも拡がり、通称“あぜ”とよばれている。

この沖ノ島層は浅海性の化石を多産し、その種数は20数種におよんでいる。その中で特筆すべきものは、オウムガイ (*Eutrephoceras japonicum*) であるが、他に二枚貝の *Pitar kyushuensis*, *Venericardia nipponica*, 巻貝の *Athleta nishimurai*, *Athleta japonica* などもある。これらの化石は、いずれも保存が良く、立派な標本が採集できる。

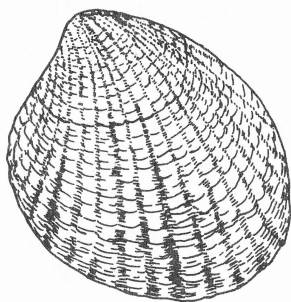
この中で、オウムガイ化石は現在までに100個以上も採集されており、一つの地域でこれほど多く、しかも幼体から成体におよぼほぼ完全形のものが産出するのは、わが国でもきわめて珍しい例である。オウムガイは外殻をもった頭足類で、殻の内部は隔壁によっ



Athleta nishimurai
(ニシムラホテイボラ)



Pitar kyushuensis
(キュウシュウハマグリ)



Venericardia nipponica
(ダイオウフミガイ)

図2 沖ノ島の貝化石

て住房と気房とに区切られている。現在はフィリッピン近海からオーストラリア沿岸の水深50~60mの暖海にのみ生息している。死後殻だけが黒潮によって日本列島の南岸に漂着することがある。現生種の生息地域から推測すると、始新世に沖ノ島層が堆積した頃は亜熱帯的な暖海であったといえるだろう。

⑤の地点から山越えて火薬庫の側を通り抜けると、道幅もやや広くなり炭住街に出る。炭住街のはずれのトンネルを抜けると前述の炭鉱会館の横に出て、沖ノ島をちょうど一廻りしたことになる。

⑥ 伊王島西海岸巡検コース 伊王島棧橋から沖ノ島に渡る賑橋の付近から山道を登って行くと途中に町役場があり、町役場の上の丘は眺めの良い広場になっていて、その一隅に俊寛僧都の墓がある。その広場から島の西側中腹を通して島の北端の灯台に通じている道路の途中から、畑の中の小路を通して千畳敷⑥に降りる。この千畳敷は伊王島層上部（厚さ 200 m+）の下底で、千畳敷砂岩とよばれている砂岩層があり、傾斜方向に浸食されて広く層理面があらわれているので、千畳敷とよばれている。

千畳敷から西海岸にそって北に進むと、砂岩から含れき砂岩、さらに泥質砂岩が連続して露出し、海食台をなしている。この⑦の付近は化石が密集した部分であり、*Glycymeris altoumbonata*, *Athleta japonica*, *Orthaulax japonicus*, *Nucula hizenensis*, *Cardium hizenense* などを含んでいる。これらの貝化石は密集して堅硬な団塊となって含まれていて、非常に堅い。したがって化石採集にはタガネが必要である。

化石採集を終えてからの帰路は、山越えて大明寺部落を通り、棧橋に向かってよく、その途中のボタ捨て場に立ち寄るといろいろな化石が採集できる。また、海岸ぞいに折り返し、千畳敷の岬をまわって海峡の方に向うと、⑧付近で伊王島層下部の最上限が海食崖をなして露出している。この層にはれき岩や塊状砂岩をはきんで2枚の薄い炭層や松岩（珪化木）があり、砂岩には砂管（サンドパイプ）が密集しているのがよく観察される。

上に述べてきたように、沖ノ島・伊王島は化石採集や化石の産状を研究するのに絶好な場所である。とくに伊王島の西海岸“千畳敷”は子供でも行けるコースであり、またピクニックにも適したところである。

（石川直衛）